

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年10月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1174300481
法人名	有限会社 まごころ
事業所名	グループホーム まごころ
所在地	〒367-0035 埼玉県本庄市西富田653-1 (電話) 050-8600 - 1795

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年10月7日

【情報提供票より】(平成20年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	25 人	常勤 7人, 非常勤 18人, 常勤換算	14.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	15,000円+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日あたり 円			

(4) 利用者の概要(9月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	9 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	64 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本庄福島病院、上武病院、スエヒロ歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、平屋建ての和風建築で2つのユニットがL字型に伸び、全体に明るく、リビングは吹き抜けの天井の上が天窓になっていて、利用者が集い、職員とともに楽しめるつくりになっている。周囲には野菜畑が広がり、四季折々の変化があって、快適な眺めになっている。また、上越新幹線の駅や関越自動車道のICに近く、宅地開発が進んで新築住宅が増加してきているが、住民や自治会の理解が進んで協力が得られてきている。このような環境のなか、管理者と職員は認知症ケアに対する高い熱意を持って利用者本位の暮らしを尊重し、自然で穏やかに接し、一人ひとりに寄り添ったきめ細かな支援がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では地元自治会への協力依頼及び住民への働きかけ、職員の自己評価への参加、運営推進会議の充実や地域活動への参加等が改善課題とされていたが、自治会及び住民の理解と協力、自己評価への職員参加、並びに運営推進会議の充実等に著しい改善がなされてきている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は自己評価の意義を職員によく説明し、職員の参加のもとに評価を行い、気付きやサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は消防分署、地元及び隣接の自治会長、ケーブルテレビ局、利用者、家族、近隣住民等多数の出席を得て開催され、ホーム側からの報告や説明と、防災、防犯、緊急時の連絡網整備などの提案や意見交換が積極的になされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の暮らしぶり、健康等について職員が手書きした「手紙」を添えて月次報告書を送付している。また、来所時には声掛けをして利用者の状況を伝え、意見や希望、提案、思いなどを伺ってサービスの改善につなげるようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元自治会へ加入し、地域の祭りへ招待を受けたり、近くのスーパーでの買い物を通して店員と馴染みになり近隣住民との交流も進捗するなど、地域との連携が深まってきている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の生活習慣を大切に、地域に密着してその人らしく暮らし続けることを目指した端的で分かり易い当事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は申し送りのときに必ず読み上げられ、理念を共有し、日々の介護の実践に活かすことを心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として地域の自治会に加入し、納涼祭に招待を受けたり、また、地域住民との馴染みの関係も深まるなど交流が活発化してきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び管理者は自己評価の意義を理解して職員によく説明し、職員参加のもとに自己評価を行い、気付きや見直しを通じてサービスの向上に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域の消防分署長、地元及び隣接地区の自治会長、ケーブルテレビ局、近くの居住者、利用者と家族、管理者と副ホーム長等の出席のもとに開催され、ホーム側からの説明や報告、防災、防犯、緊急時の連絡網づくりなど提案や意見交換が行われ、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	リハビリを受けたいという利用者について市役所の担当課へ連絡し、市職員と緊密に連絡を取り合い、本人と納得が行くまで話し合い、都内の該当する施設へ入所するまでサービスを行った。また、この利用者の退居後の取り扱い等についても話し合うなど、市の担当者と行き来する機会を持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶり、健康状態等については職員が「月次報告書」に手書きして詳細に報告している。また、状態に変化があればそのつど電話で報告しているが、職員の異動については報告していない。		月次報告書の記載は詳細、かつ、丁寧ではあるが、内容別に区切るなど要点を明確にする工夫をされると一層分かりやすくなると考えられる。また、職員の異動は家族にとっても関心が大きいので必ず報告し、併せて新任職員のプロフィールも紹介されると馴染みやすくなる期待される。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度は利用者の自己負担分の支払のため家族が来訪するため、この機会に意見や要望などを伺うことに努めている。また、家族会においても希望や意見等を出してもらい、ホームの運営やケアの向上に活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	フルタイム職員中心で運営する体制から非常勤職員の割合を多くする体制に変更したところ、職員の異動が多くなった。新しい職員には、文書化された前任者からの引継ぎ事項をはじめ、従来からの職員が付き添って仕事の内容や利用者の状況等をよく教え、利用者へのダメージを防ぐように努力している。		利用者及び家族にとって職員の異動は大きな関心事であり、異動後は慣れるまで不安が伴うので、今後は職員の定着化に一層の研究と配慮が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は、外部研修にあつては常勤職員・非常勤職員の区別なく、受講可能な職員に参加してもらい、研修終了後はレポートを作成して全員に供覧し、研修内容の共有化を図っている。また、職場内においても、全員参加による勉強会の形で現状に即した研修を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内北部地区のグループホーム協議会に加入し、この協議会での交流のほか、当法人が運営する他のホームと相互訪問するなどしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス開始に至る前に、利用者宅を訪問したり、ホームへ来ていただいて他の利用者や全体の雰囲気馴染んでもらい、また、家族とも相談を重ねながら、納得の上で入居してもらうようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食材の買出し、調理の下拵え、下膳や洗濯物干しと取り込み、折りたたみ等できることはやってもらい、感謝の言葉掛けを行っている。また、利用者から調理の方法や洗濯物の干し方など長年の知恵を教えることがあり、支えあう関係が築かれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>外出や入浴など本人の意向を尊重して対応している。また、言葉に表すことが困難な方の場合は、普段から表情や仕草などをよく研究しておき、意向を汲み取って本人本位に対応している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は家族の思いや意向を聴き、さらに、職員参加によるケアカンファレンスを行って意見やアイデアを反映した計画を作成している。また、介護計画書と介護記録、バイタルチェック等を個別に編綴し、計画と実施の経過とが分かりやすくなるように工夫している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は利用者の状況を見ながら、通常6か月間で見直しをしている。しかし、途中で変化が見られた場合はそのつど見直すこととし、本人、家族とも話し合いの上、現状に即した新しい計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、または家族の状況に応じて、通院介助や自宅訪問の外出支援など、事業所の機能を活かした支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、協力医院の内科医による検診があり、毎週月曜日には歯科の協力医院からの訪問診療を受けている。また、本人や家族の希望があれば別の医療機関での受診支援も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、あるいは終末期の対応にあつては、看護師等医療スタッフの確保が実現できていない。そこで、入居時に家族に対し、重度化して医療行為が必要になった場合は、家族、医師と話し合い、他の適切な施設または医療機関を紹介すること、また、移ることができるまでは当ホームでケアすることを説明している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を人生の先輩として尊敬し、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けはしていない。また、個人に関する情報は入職時に、在職中はもちろん、退職後においても秘匿するよう誓約書を入れてもらっており、記録等書類の保管にはよく注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や外出などをしたい利用者がいた場合は、職員は他の業務に優先して必ず付き添うようにしている。また、洗濯物干しやその折りたたみなどを得意とする方、あるいはリビングの椅子で過ごしたい方等さまざまであるが、それぞれのペースを尊重し希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しいものになるように、もやしの芽とり、キャベツの千切り、芋の皮むき、配膳、下膳など食事の準備や後片付けに利用者にも参加してもらい、職員と一緒に作業し、共に食事を楽しんでいる光景が見られる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午前、午後の入りたいときに自由に入れるようにしており、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、散歩、テレビの時代劇鑑賞、あるいは雑巾を縫ったり、モップ掛けや洗濯物干し、折りたたみなど、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物など外出する機会をつくり、その日の希望に沿って戸外に出かけるようにしている。さらに、初詣、花見、蛍見物等季節に合わせた外出も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として日中は鍵を掛けないケアをしているが、玄関だけは目の前が車の交通が多く危険なため鍵を掛けている。しかし、利用者に出歩きたい様子が見られるときは直ちに職員が声掛けし、付き添って出かけるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震を想定した通報、避難誘導、消火等の訓練を消防署指導のもとに実施し、職員の緊急連絡網も作成して事務室に掲示している。また、近隣住民の支援も大切であるため、運営推進会議の議題に掲げ、協力について理解をいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事や水分の摂取状況については克明に記録しており、一人ひとりの状態をよく把握している。また、利用者の好みや食べやすさ等についても配慮し、職員は各利用者ごとの情報を共有してきめ細かな支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者にとって不快な音や光が入らないようにしてあり、ことにリビングは天窓が広がっていて明るく、窓外には野菜畑が広がって季節感があり、居心地よく過ごせる快適な空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具や仏壇、馴染みの物や好みの品を持ち込み、本人が落ち着いて居心地よく過ごせる配慮がなされている。		